

1 学校として目指す授業

・体験や事実、根拠に基づいた学習活動を展開し、生徒自らが課題解決する授業	・学習のねらいを明確にした計画的で見通しのある指導を行い、生徒が学習の意義や価値を実感できる授業
--------------------------------------	--

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、全ての領域において全国平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」では、全国平均を11.1%上回った。・数学科では、「データの活用」の選択式が全国平均を下回っているが、全体的には全国平均を3.5%上回った。	・生活習慣では、毎日朝食を食べている76.8%、毎日同じくらいの時刻に寝ている31.3%、毎日同じくらいの時刻に起きている46.4%、と規則正しい生活を送ることができていないことがわかった。また、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思います」が29.5%と全体的に学習に対しての不安や苦手意識が高い傾向がみられる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

「国語・社会・英語」と比べて、「数学・理科」の得意意識が低い。学習へのモチベーションとして、「できると楽しい・将来の役に立つ」と考える生徒は半数を超えるが、「褒められる」「負けたくない」と考える生徒は半数以下であり、自己実現の意欲が高いことが予想される。一方、学習方法としては、「繰り返し練習する」意識がやや少ない。集中して取り組もうという意識はあるが、「積極的に自分の考え（間違えているかもしれないが）を他者に伝える」ことや、「学習方法を工夫して」「見通しをもって」は半数を下回る。対処療法的な学習に終始している生徒が多いことが予想される。基礎的基本的な知識や技能がしっかり定着していない生徒も見受けられる。継続して、対応していく。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語・数学共に市の平均より高い結果であった。基礎問題については平均より高く、生徒は基礎が身につけていると考えられる。しかし、応用については数学については、平均を下回っていた。特に関数の問題が、市平均より大きく下回っているため、苦手意識を持つ傾向がみられる。
--

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
新体力テストの結果より、全国平均に比べ「握力」「立ち幅跳び」の数値が高く、「50m走」「1500m走」の数値が低いことがわかった。体育の毎授業の準備体操で補強運動を行っているため、「筋力」「瞬発力」が発達していると考えられる。一方で「スピード」「持久力」に課題がある。今後は準備体操のランニング以外に授業の中に意図的に走る運動を取り入れたり、補強運動に脚力を高める運動を取り入れたりするなどし、課題の解決に向け取り組んでいく。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・学習に対する意味や意義を理解し、これまでの経験や知識と結び付けて考えを広げるとともに、将来の自らの生き方と結びつけて深める必要がある。
・複数の文章や資料を基に「これを伝えたい」という意欲を喚起し、「自分の考えを適切な語句を使って整理して伝える」という能動性を持たせた体験的な学習が求められる。
・自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整する力が求められる。

4 学校全体の授業改善の視点

・複数の資料から必要な情報を読み取り、それをもとに他者と意見を交換することで、自らの考えを深める。
・自らの学習状況を把握し、知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身に着けるために、粘り強く取り組むことができる。
・社会的事象と結びつけた学習内容を工夫する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	発表・相互評価を中心とした交流活動を定着させ、思考力・判断力・表現力を伸ばす。		思考力や表現力を高めるために、単元のまとめで記述問題に取り組ませる。学習内容の定着を図る取り組みを行う。		基本事項と既習事項を随時確認し、自ら考えて問題や事例を解決していく力を育む。		「興味・関心をいかに引き出すか」という視点を継続し、持っている知識から仮説を立てられるようにする。		歌唱での表現をもとに、鑑賞や器楽の体験につなげ、共に話し合い、工夫する場面を増やす。		少人数の鑑賞活動を増やし、作品のよさや美しさについて話し合いをする場面を設定する。		男女共習を活かしたグループ編成を行い、教え合いや話し合いの場面を設定する。		安全を徹底し、作業手順や作業の目的を明確にし、見通しを持って作業に取り組めるようにする。		会話活動やスピーチにおいて自分事として取り組める課題を設定し、主体性を高める。		各道徳項目について考えさせると共に、生活とのかかわりについて考えさせ、内容を深める。	
2学年	単元や授業の進め方を明示し、生徒が見通しをもって主体的に授業に取り組めるようにする。		基礎基本の徹底を行うために、単元ごとの小テストを実施する。		課題解決のための基本的知識を定着させ、自身の考えを記述できる力を継続して高める。		実験・観察活動において仮説を立て、探求の道筋を立てるとともに、結果を表やグラフでまとめ考察できるようにする。		鑑賞や器楽の学習を歌唱表現につなげられるよう、話し合いや工夫させる場面を増やす。		拡大投影機や個別指導で技法を丁寧に教え、技術力や発想力を高める活動をする。		自己や仲間の課題解決に向けて、話し合い活動を多く取り入れ、全生徒の基本技能の習得を目指す。		日常生活において技術的な課題を見つけ、解決していく力を身につけられるようにする。		個別発表や全体発表の機会を持たせ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。		教材を使って考えさせた各項目の内容を自分たちの生活と関連させて捉えさせる。	

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

3 学 年	意見と根拠、具体と抽象など、文章の構成に着目させ文章中の要旨を読み取らせる。		授業における学習内容を、文章にて要点をおさえまとめる作業を毎単元行う。		各分野の基礎基本事項の定着を継続して大切にし、主体的に考える力を育んでいく。		知識技能を、反復学習により習得させる。基礎をもとに応用に取り組み、思考力を養う。		お互いに表現について検討し合い、表現を深めるための意見を出し合う取組を行う。		生徒自らが計画を立てて制作できるように、板書やスライドで時間を意識させる。		授業のねらいを明示し、体育係や班長を中心とした活動を行い、生徒の自主的な学習を促す。		自ら課題を設定し、解決する授業を取り入れる。授業規律を徹底し安全に作業ができる環境を整える。		単元を貫いた目標を常に示し、その達成に向けて生徒が試行錯誤していく授業を実践する。		教材を通して、考えた道徳項目を実生活の中に反映できるよう意識させる。	
-------------	--	--	-------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	--	--	--	--	--	---	--	------------------------------------	--